

# 市民記者のページ



おじま まさみ  
小島 正美 さん(柳)

変化を受け入れ大人も自分らしく生きられる社会について考えることが大切です。

市では、平成23年に男女共同参画都市を宣言後、男女共同参画社会の実現を目指して、市民協働課が主体となり、さまざまな事業が行われています。小中学生を対象にした、男女共同参画に関する作文コンクールもその一つです。これは旧下館市で夏休みの宿題として行われていた事業を合併後も継続したもので、近隣

## 筑西市独自の取り組み

みなさんは「男女共同参画」って何?とお子さんやお孫さんに尋ねられたらどう答えますか。今回は、この難しいテーマを題材に、小中学生が書いた作文について取材しましたので、ご紹介します。

# 小中学生の目で見たい 男女共同参画 夏休みの宿題から始める小さな一歩



昨年の作文コンクールの表彰式で  
作文を読む受賞者

の自治体では行われていない独自の取り組みです。昨年度は小学生117点、中学生488点と多数の応募がありました。作文には、家族みんなで家事を分担している様子や学校での役割分担に関して、疑問に思ったことが多く書かれています。ほかに医学部入試問題やニュージールランド首相が産休を取った事を取り上げ、「性別にとらわれず個人としての能力が尊重されるべき」という意見が述べられた作文もありました。作文は男女共同参画推進委員会と教育委員会の審査を経て、優秀作品8点ずつが選ばれ、文集にまとめら



男女共同参画推進委員のみなさん。左から、市村さん、箱守さん、増淵さん。

## 男女共同参画について考えるきっかけとして

委員長の箱守さんは「これからの日本を支える若い人たちには、性別にとらわれず、自分らしく生き生きと、個性や能力を最大限に発揮して活躍してもらいたい」と期待を寄せています。また、市村さんと増淵さんも「作文コンクールは子どもたちの男女共同参画の意識づけになり、

## 男女共同参画 フォトコンテスト



ひとひと  
～女と男との助け合い～

身近な助け  
合いの写真  
募集中

### 募集期限

12月13日(日) ※必着



応募方法など、詳しくはホームページをご覧ください。

市民協働課 (アルテリオ)  
23-1600



とても有意義な企画だと思います。男性、女性の意識を取り除き、能力や特性による判断ができる社会になってほしい。また、どんな問題でも、多方向からの視点で考え、固定観念に対して疑問を持つことを忘れないでほしい」と話してくれました。

## 変化する男女共同参画

事業が始まってすでに10年以上。小中学生を取り巻く学校や家庭の環境もずいぶん変化したと思います。私たち大人も常に問題意識を持ち、男女共同参画についてどのような社会を目指して行けば良いのか、考えることが大切なのだと感じました。